

不況と戦争の時代（1931～1945）その 1 2

《 1 9 3 9 年、東洋一だった大師橋完成 》

国政が混迷を深めていく 1 9 3 9 年（昭和 1 4）、多摩川河口域に大師橋が完成します。橋の形式は、下路式ゲルバー式鋼トラス橋といわれるタイプで、多摩川に二つの橋脚を立て、三つのトラスを連結して川を渡しました。

当時、この形式では東洋一の規模でした。（注 1）地方道路橋であり、国の補助があるとはいえ、事業者の東京都・神奈川県の実力のほどが分かります。（注 2）これにより、京浜工業地帯と羽田が繋がり、直下流にあった羽田の渡しが廃止されました。（注 3）

その後、大師橋は、老朽化と交通量増加に対応するため、架け替えられることになり、1 9 9 7 年（平成 9）にⅠ期工事として 3 車線の橋が、2 0 0 6 年（平成 1 8）にⅡ期工事としてもう 1 本の橋（3 車線）が完成しました。

新しい橋の構造は、斜張橋といって、主塔を立て、そこからワイヤーで道路を吊るすタイプです。2 本の橋は、それぞれ主塔は 1 基ですが、位置が川崎寄りと東京寄りにずらしてあり、3 連トラスの往時の形状を連想させる工夫がしてあります。大変、美しい橋です。

注 1：橋の長さは、5 5 2 m。車道は、二車線あわせて 1 1 m、両側に 2. 5 m の歩道がありました。

注 2：工費 1 3 1 万円のうち、1 / 3 は国庫補助、1. 2 / 3 は東京都、0. 8 / 3 は神奈川県の負担。

注 3：大師橋を通る通称、産業道路は、「東京都道・神奈川県道 6 号東京大師横浜線」といいます。川崎側の産業道路は、その昔、鶴見臨港鉄道軌道線という路面電車が走っていましたが、廃線となり、その敷地を利用し拡幅整備されたものです。

写真は、①昔の大師橋の絵画（平尾秀明作「多摩川と大師橋」、大田区 HP「新大田区百景」掲載写真）、②新旧大師橋（Ⅰ基工事完成記念イベント時の写真、9 月 1 4 日航海日誌 HP より）、③現在の大師橋（Wikipedia 掲載写真、右が大師橋、左が首都高大師橋）

①



②



③

